

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐山高等学校

学校番号

4

1 学校教育目標	<p>教育基本法にのっとり、豊かな情操と強固な意志を備えた心身ともに健全な人間を育成するために、次の教育目標を定めてその実践を期する。</p> <p>(1) 「躍進岐山」の意気と誇りをもって</p> <p>(2) 全力を尽くして学業に励め</p> <p>(3) 礼儀正しく思いやりのある人となれ</p> <p>(4) 強固な心身をつくれ</p>
----------	--

I 自己評価

2 評価する領域・分野	◇教務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・予復習や宿題の不徹底等、学習の消化不良と定着不足により、学習に意欲的に取り組めない生徒が存在する。 ・自ら発展・応用的な学習に取り組む姿勢が弱い。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇教科の授業や探究の時間等を通して「知識の獲得」と「知恵への昇華」を図る。</p> <p>◇科学の視点と言語活動を重視した授業を展開する。</p> <p>◇岐山高校を認識してもらうため、広報活動を行う。</p> <p>◇様々な状況に対応し、円滑な教育活動が実施できるよう取り組む。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部及び学年会、教科会 ・探究部、進路指導部 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) より良い学習習慣の確立と基礎・基本の定着を目指す。</p> <p>(2) 学習の到達度に応じた指導を組織的に行い、応用力・実践力を育成して学力の伸長を目指す。</p> <p>(3) 教科授業と探究の時間等の連携を図り、生きて働く「知識・技能」の習得を目指す。</p> <p>(4) 科学の視点と言語活動を重視した授業を展開するため、授業研究や教材開発を行う。</p> <p>(5) 全教科で取組についての分析や課題、方策の検討会を行う。また、補充の見直しに向けて取り組む。</p> <p>(6) 中学生や保護者向けの高校説明会や理数科一日入学等を適切に実施して岐山高校の正しい認識を広げる。</p>	<p>(1) 予習や課題、朝テストの事後指導の実施状況により判断する。提出状況や事後指導は100%を目指す。</p> <p>(2) 生徒による授業評価並びに家庭学習時間の調査より評価する。授業に対するアンケートでは5段階評価で4.0以上を目指す。</p> <p>(3) 全教科で年2回、研究授業と研究会を実施し、研究実践の蓄積を行う。</p> <p>(4) アンケート等を利用して昨年との比較をする。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で「知識の獲得」と「知恵への昇華」について現状を分析し、具体的な取組を定めた。 ・各教科で「科学の視点(根拠に基づいた思考や論理性)と言語活動を重視した授業の構築」をテーマに授業研究と実践を通して、教科指導力の向上を目指した。 ・補充の見直しに向けて取り組めた。 ・中学生向けに高校見学会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導体制が機能し、評価基準を確認しながら取り組めたか。 ・職員の共通理解の下、組織的に取り組めたか。 ・参加者数、参加者からのアンケートによる評価。 	<p>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
11 成果・課題	<p>○刻一刻と状況が変化中、それらに対応し、他分掌や学年会とも連携しながら、本校の担う教育活動を実施することができた。</p> <p>○中学校での高校説明会9校、中学生向け高校見学会(参加者数663名、R01年度1,457名)を実施し、アンケート結果では、93%が本校に興味・関心をもてたと回答しており、昨年より増加した。</p> <p>▲様々な状況の変化に対する対応が優先となり、例年落ち着いた状態で実施できていた活動が例年のように実施できていない。</p>	
		総合評価
		A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・学力不振者に対する指導。各教科、学年会で生徒の状況について情報を共有し、HR担任、教科担任で働きかけをして、生徒一人一人に学習課題をもたせ学力の伸長を図る。特に補充の見直しを軸に、落ち着いた学習に取り組めない生徒への指導方法の確立に取り組む。 ・探究部の取組と連携しながら、生徒一人一人のキャリア意識を涵養し、興味・関心の高まりや自己の将来像への意識の高まりから、学習に対する目的意識・学習意欲へ繋げていく手立てに取り組む。 ・外部連携事業や中学校への説明会等、本校のPRとなる活動に組織的に取り組むことや、校内の教育活動が円滑で効果的に実施できるよう他の分掌・学年等とも連携しながら取り組んでいきたい。 		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生としてのモラルやマナー等の社会規範を身に付けさせる指導に関する項目は、保護者が4.2、生徒が4.4と評価は高めである。 ・「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」といういじめに関する項目については、保護者が4.3、生徒が4.5と高い評価といえるだろうが、保護者に関しては分からないとする割合が2割を超えている。「教育相談係の適切な指導」の項目についても、4.2と評価は高いが、分からないも2割を超えていることから、個人情報への配慮をしつつ保護者に対して情報を発信していく工夫を考えたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇全職員の共通理解と連携に基づき、生徒一人一人を正しく理解し、基本的な生活態度を育成します。 ◇支援を必要とする生徒に対して早期発見、早期対応に努め、組織的に対応します。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や他分掌との情報共有と連携指導 ・ケース会議、特別支援会議等の専門家を交えた教育相談体制 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1)週初めや集会時に実施する身だしなみ指導、遅刻指導、情報モラル指導、交通指導等を通じて、全職員の共通理解のもと生活規律を整えます。 (2)予防的・啓発的生徒指導に努め、MSL活動やボランティア活動により生徒の自主的・自発的活動を支援します。 (3)生徒理解連絡会、ケース会議、特別支援会議、学校いじめ防止等対策委員会、専門家を交えた校内研修等で、支援を必要としている生徒について職員の共通理解を深め、支援方針を検証します。 (4)支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーター、他の関係機関が連携して校内支援体制の充実を図り、組織的に対応します。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)生徒の身だしなみが整い、基本的な生活態度や情報モラルが身に付いたか。 (2)生徒・保護者に対して啓発活動が活発になされ、積極的な生徒指導ができたか。 (3)支援を必要とする生徒について、分析・検討を重ね、職員間で共通理解を図り、それを踏まえた対応ができたか。 (4)生徒理解のための情報連携がなされ、未然防止、早期発見、早期対応がなされたか。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月曜日に実施する身だしなみ指導、職員による声掛けや保護者との連携指導。 ・予防的・啓発的生徒指導に努め、MSL活動やボランティア活動による生徒の自主的・自発的活動の支援。 ・生徒連絡会議、ケース会議、特別支援会議等、専門家を交えた会議を通じた情報連携と指導。 ・支援を必要としている生徒に対して、担任、学年会、特別支援教育コーディネーターが関係機関と連携して校内支援体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の身だしなみを始めとして生活規律が整ったか。 ② 生徒・保護者に対して広く啓発活動ができたか。 ③ 支援を必要とする生徒に軸足を置いた対応ができたか。 ④ 生徒理解のための情報連携がなされ、未然防止・早期対応ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
11 成	<ul style="list-style-type: none"> ○未然防止の観点から指導を心掛けており、職員、保護者との連携指導等で規範意識の向上を目指している。いじめ重大事案は今のところない。 ○支援の必要な生徒に対応するため、カウンセリング・面談の回数を増やしたり 	
		総合評価

果 ・ 課 題	<p>することで、合理的配慮を提供したり教育相談体制が整備されてきた。</p> <p>▲支援の必要な生徒が常に存在していることを踏まえ、予防的な対応の充実を今後も心掛ける必要がある。また、外部からの情報に早期に対応し、保護者も含めた迅速な情報提供・対応について考える必要がある。</p>	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D			
12 次年度に向けての改善方策案								
<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者への情報発信及び早期支援の必要な生徒に対する職員の連携対応の継続と、コロナ下における生徒指導の在り方の模索を続けることが大切である。 								
2 評価する領域・分野	◇進路指導部							
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から変更となる入試に関する情報及び新型コロナウイルスに関わる入試の変更点についての情報提供が大切である。 進研模試1, 2年生の偏差値45前後の生徒が3教科ともにこの2年増加しており、底上げがいかに行けるかが課題である。 学習状況リサーチの結果から、学習時間はこの3年間減少している。学習時間を増やすための方策について考える。 							
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇キャリア教育を推進し、自己理解の上、自己実現達成への支援をする ◇具体的な進路設計と計画の実行への支援をする 							
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習との内容を含めた探究部との連携 ・学年会、教科との連携 							
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標							
<p>(1)探究活動の中に、進路研究や学問研究を積極的に取り入れます。また、大学との連携をすすめ、学習意欲を向上させるとともに、大学における学問及び研究活動に円滑な接続を図ります。</p> <p>(2)生徒個々の進路や入試形態に応じて個別指導を充実するとともに、期間を限定した柔軟な時間割運用によって効果的な学力向上を図ります。</p> <p>(3)全学年とも土曜講座や補習など、各自が自己分析によって意欲や理解度に応じた学習活動ができる機会を提供します。</p> <p>(4)各学年で適切な時期に校外模試を実施することで、自分の現在の学力レベルで把握し進路選択に役立てます。</p> <p>(5)スタディーサポート(年1回)、進路希望調査(年2回)を実施して生徒の学状況などの実態を把握し、家庭学習の充実や進路決定の支援をします。</p> <p>(6)各学年で適切な時期に学年集会や進路LHRを実施することで、学年ごとの目標を確認し、生徒の進路意識の高揚を図ります。</p>	<p>(1)各行事の有効性は、生徒の講座や講演会に対するアンケートにより評価する。</p> <p>(2)特編授業や小論文指導の生徒の取組状況、家庭学習期間や登校人数により評価する。</p> <p>(3)申し込み人数や出席状況、また通常授業における参加者の意欲変化等の観察により評価する。</p> <p>(4)模試事前学習において各自が設定した目標偏差値を上回ることを目指す。学年平均偏差値及び度数分布で評価する。</p> <p>(5)回答内容や家庭学習の変化や比較により評価する。</p> <p>(6)進路希望調査内の進路に関する回答、スタディーサポートの結果を分析することで評価する。</p>							
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点		10 評価					
<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試を早期に意識させるため、大学入試研究講座を実施した。(e-learningの活用) ・1年生において学習状況リサーチを2回実施し、模試やスタディーサポートと連携させ、客観的に初期指導が定着しているかを分析した。 ・校外模試の分析を実施し、基礎学力定着への働き掛け、集会を実施などの工夫を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験生としての意識が高まる内容であるか。 ・今後の学習支援になっている内容であるか。 ・今後の学習活動に活かせる内容であるか。 		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D		
			A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D		
			A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D		
11 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○1, 3年生を中心としてリモートで学年集会や進路講演会・説明会を実施した。説明会の中で生徒が活動できる場面を設定した。 ○土曜講座の受講者は、1年生前年比222%、2年生146%、3年生100%であった。実施内容について柔軟に対応する必要がある。 ▲進路の手引きを改訂し、キャリアパスポートの位置付けを明確にしたが活用しき 				総合評価			
					A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D

課題	れていない。 ▲3年生における入試情報の変化が著しく、正確な入試情報の収集が困難な状況であった。情報の収集について検討の必要がある。		
12 来年度に向けての改善方策案 ・校外模試で偏差値50の生徒を増加させるため、学年会、教科で弱点分野等の課題を共有する。 ・タブレットを活用するなどキャリアパスポートの実施形態について整備する。 ・新調査書の担任の動きについて整理する。			
2 評価する領域・分野	◇特別活動部		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の回答では、生徒会活動に対するEの割合が22.4%と高く、新型コロナウイルスによる休校の影響がはっきり出ている。 ・保護者の回答では、ボランティア活動に対するEの割合が31.8%と高く、こちらも休校の影響がはっきり出ている。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒が主体となって学校行事の企画・運営にあたります。 ◇進学校として望ましい部活動の在り方を推進します。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部と、クラス役員によるクラスとの連携 ・特別活動部と他の分掌、各学年会、各部顧問との連携 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒は、自ら考え行動できる「学校のリーダー」となれるように努めます。 (2) 生徒は、各行事が円滑に実施できるように、計画的に準備し運営を行います。 (3) 生徒は、各行事が終了後、速やかに見直しを行い、来年度の改善につなげられるようにします。 (4) 顧問は、休養を設けるとともに定められた時間内で最大限の効果が上がるように活動を計画します。 (5) 顧問は、担任とともに家庭との連携を密にし、生徒が有意義な高校生活を送れるように支援します。 (6) 顧問は、担任や教科担任と連絡を取りながら、生徒の生活状況を把握し、学習活動にきちんと取り組めるように支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒自らが、委員会やホームルーム等の活動に主体的に取り組めたか。 (2) 生徒自らが、各行事の企画から運営までを計画的に行えたか。 (3) 生徒自らが、評価すべき点や改善すべき点を見いだせたか。 (4) 活動時間を厳守し、終了後は速やかに帰宅するように指導する。 (5) 保護者の理解・協力のもとで活動を行い、意見や要望には、誠実に対応する。 (6) 部活動と学習活動の両立ができるように指導する。 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校再開後、生徒会は懸命に行事の在り方について検討し、コロナ禍でどうしたら実施できるかを模索した。 ・インターアクト部と合同で冬の懇談期間中に募金活動を行い、成果を挙げることができた。 ・県の基準に従って部活動の安全で無理のない活動を計画し、感染対策に十分配慮した上で各部が活動できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の運営には柔軟に対応し、取り組む中で改善点を明らかにできたか。 ・活動に関して広く広報を行い、生徒・保護者に認識を深めてもらうことができたか。 ・部活動と学習活動の両立に全校体制で取り組むことができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○行事を経験していない中で来年度に繋ぐため、コロナ禍でどのような形で行事を実施することができるかを生徒会で検討した。教員の側でもその都度、問題点を指摘しながら、具体的な方策をまとめられるように指導した。 ○新型コロナウイルスの感染予防対策に十分配慮した上で各部が活動し、対外的な活動なども行えるようになった。 ▲コロナ禍でのボランティア活動は、校内での活動が中心とならざるを得ないため、従来からの対外清掃のほか、校内募金活動も再開できた。その成果を報告する場を考えたい。 	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>	
12 来年度に向けての改善方策案 ・来年度は全ての行事を実施することとし、どのような形でなら実施できるかを詰めていく。 ・普段の練習はもちろん、対外活動においても安全な活動ができるよう一層の注意をしていく。 ・ボランティア活動の実施からその報告まで、HPなどで広く提示できるようにしていく。			

2	評価する領域・分野	◇保健厚生部		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での健康・安全への取組について、興味・関心の度合いが高くなっている。 ・掃除用具の対応。掃除への取組方法。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇新型コロナウイルス感染症予防の重要性を認識させるとともに、指導の徹底を図る。 ◇清掃と環境保護活動を推進し、美化意識と環境保全意識の高揚を図る。 ◇安全点検や命を守る訓練を通して、安全・防災に対する意識を高めるとともに実践力を育成し、事故防止の徹底を図る。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全委員会 学校安全衛生委員会 ・生徒会生活美化委員会 保健委員会 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)・新型コロナウイルス感染症予防対策を最大限に発揮させる指導を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック表・手指消毒・マスクの着用・除菌作業等多岐にわたる対策の徹底を図る。 ・全職員が一致団結し、生徒が安心安全に学校生活を送れるようにする。 (2)・適切な清掃計画により、日常の清掃の徹底を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動等を通じて、身近な環境への関心を高めるとともに、省エネルギーに努める。 ・私物を各自に与えられたスペースに収納することを徹底する。(職員の配置) ・安全点検を大掃除時に実施し、施設・設備の整備に努める。 ・ワックスがけの工夫。 (3)・命を守る訓練や防災についての意識調査や講話などを防災教育と位置付け、LHRやSHR時に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育的諸活動時における事故防止には万全を尽くすように適切な指導助言を行う。 	(1)県のガイドラインをしっかりと理解し、徹底した予防対策を行う。 毎日の健康チェック表の確認、種子消毒指導の徹底、毎日2度の除菌作業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック表の提出率を100%に近づけるように、全職員で徹底する。 ・教室の換気については、県のガイドラインに従って確実に行う。 (2)日常の清掃活動において清掃が確実に行われているかをチェックする。 冷暖房使用時の各クラスの温・湿度や、二酸化炭素の濃度測定状況を確認し、エアコンの正しい使用や暖房時の適正な換気がなされているかをチェックする。 教室・廊下の私物の整頓状況で評価する。 不具合に対して速やかに対応する。 (3)災害時の対応や現状の知識・意識をアンケートなどで調査し訓練の参加状況と合わせて評価する。 諸行事中に発生が予測される事故についての対応を事前に準備し周知徹底する。			
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10 評価
① 新型コロナウイルス感染症の予防対策の徹底を図った。	② 委員会活動や担当部署の生徒・教員に環境美化担当を配置した。 掃除用具を購入しワックスがけを2日で実施。	③ 安全点検の結果に素早く対応した。	④ 学校防災への取組を行った。	① 新型コロナウイルス感染症の予防対策への取組姿勢 A B C D ② 委員会での活動状況の把握、校内巡視での確認 掃除用具点検 A B C D ③ 迅速な対応 A B C D ④ 取り組み姿勢 A B C D
11	成果課題	○新型コロナウイルス感染症予防対策の生徒の取組はほぼ良好であった ○清掃活動にきちんと取り組み、美化意識の向上とごみ減量化につながった。 ワックスがけがスムーズに実施でき、校内美化につながった。 ○安全点検に関して迅速に対応できた。特に非常階段の整備ができた。 ○防災意識が高まっている。常に新しい取り組みをしている。		総合評価 A B C D
12	来年度に向けての改善方策案			
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・職員が一体となって、新型コロナウイルス感染症に対して、健康活動への意識・行動を更に高めさせるよう努める。 ・防災リーダーとともに防災意識を更に高め、自ら考え、行動できるよう「命を守る訓練」や啓発活動を工夫する。 			

2 評価する領域・分野	◇探究部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や生徒対象アンケートで「外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習の機会を適切に計画している」の質問では、平均が保護者、生徒とも 4.3 以上と昨年より良好な評価が得られている。生徒対象アンケートの「探究の時間」が有意義である」という質問についても、平均 4.0 と前年度を維持しており、取組の目的や活動を通して身に付く力についての理解が深まってきたと考えられる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇科学的な視点で問題を発見し解決していく力を培い、他者と協働し粘り強く取り組む姿勢を養います。 ◇外部機関と連携した教育活動を行い、キャリア教育や理数教育を推進します。 ◇探究学習の時間や各教科との連携を進め蔵書の充実と利用を図ります。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 探究部 学年主任、探究活動学年担当を含む探究部会 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1)「探究の時間」などを活用した探究的な活動を企画・運営し、主体的・協働的な取組で課題解決を目指し、結果をまとめ発表することで論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。 (2)理数科対象の野外実習(フィールドワーク)や課題研究等で論文作成や発表を通して、実験・観察技能や科学的思考力、プレゼンテーション能力を養います。 (3)課外の時間を活用した研究者との対談や、希望者を対象とした特別講座を企画・実施し、その結果をレポートにまとめることで、論理的思考力、プレゼンテーション能力を養います。 (4)全校生徒を対象に、先端研究者の講演会、企業や研究機関への訪問、参加体験型研修を企画・実施します。 (5)外部機関と連携して視野や価値観を広げ、自己の将来や、社会との関わりを考える取組を実施します。 (6)自然科学系部活動を中心に、大学や企業の研究者と連携した研究活動、岐阜市と連携した中学生対象の講座など理数教育の拠点校としての役割を果たします。 (7) 探究の時間や各教科での利用のための図書を充実させます。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度末に評価テストを実施します。 (2)取組ごとに自己評価や担当者による到達度評価、年度当初と年度末に評価テストと保護者アンケートを実施します。 (3)取組ごとに参加者アンケートや自己評価を実施します。 (4)参加者アンケート、自己評価、講師による評価を受けます。 (5)参加者アンケート、自己評価、担当者による到達度評価を行います。 (6)研究成果をまとめ、各種コンクールや全国規模の大会へ積極的に参加し、外部評価を受けます。 (7)「探究の時間」の担当者・各教科からの要望への対応及び新着図書の紹介が遅滞なく行われているか。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 「探究の時間」に外部講師を招聘し、論理的思考力や表現力等を養う講座を実施した。 理数科1年野外実習、3年課題研究を実施した。 リサーチゼミ・講演会、高大連携を企画・実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価のうち満足度(五段階評価) POP4.40、アンケート講座3.97、野外実習4.42、Art講座4.83、エンジニア講座4.75 金属資源4.60 科学作品展 入選2 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の多様な興味・関心を高めることができるよう講師を招いた講座を実施することができ、参加生徒の満足度も高かった。 ▲希望者対象の講座では、事後評価における満足度等は高いものの積極的に応募する生徒数が少ない。広報活動の改善に取り組む。 ○コロナ禍の中でも図書館の利用は進んでいる。図書委員もよく活動している。 ▲もっと図書委員・図書館の活躍の場を設ける。 	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒対象だけでなく、職員対象にも探究部の活動を積極的に広報し、活動の「見える化」を重点に取り組む。特に職員を巻き込んで活動を行い、生徒にもリサーチゼミへの参加の輪を広げていきたい。 探究活動・課題研究の図書への需要に対して、常時要望に応える態勢を整える。今後も書籍・資料を揃える等、適切な資料提供・体系的知識の構築に寄与したい。 	

2 評価する領域・分野	◇渉外部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA執行委員会(年間3回)、同窓会常任理事会・理事会(年間各2回)を通じて役員の方々より、様々なご意見をいただいている。 ・PTA役員及び保護者や同窓会役員と学校との関係は良好である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 家庭と学校との情報伝達を円滑にし、一層の連携を図る。 2 PTA役員及び保護者相互のより良い人間関係の構築に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外・PTA担当と同窓会担当に分かれ、渉外・PTA運営は3名、同窓会運営には8名の本校OB職員が担当している。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 家庭と学校との情報伝達を円滑にするために、PTA会誌を発行する。 (2) PTフォーラムをPTA役員を中心に企画し参加した保護者が有意義な時間を過ごすことができるよう工夫する。 (3) PTA役員と学校職員との協力により、PTA総会及びPTA執行委員会を開催する。 (4) 県高P連総会・東海高P連総会・全国高P連大会への参加を通じて、役員相互の交流を深める。 (5) 親村バザー(学校祭への保護者の参加)を通じて、保護者相互の交流を深める。 (6) 岐阜地区支部連絡協議会での発表をすることにより、これまでのPTA活動を振り返り、今後の活動の進化を図る。	(1) 学校からの情報を伝えるとともに、保護者の活動の様子を紹介することができたか。 (2) 保護者は満足したか。参加人数は増えたか。 (3) 学校と保護者相互の意思疎通が図れたか。 (4) 参加した役員相互の親睦が深まったか。他校の取組を本校の活動に生かされたか。 (5) 参加保護者が、相互に交流を深めることができたか。 (6) 本校のPTA活動をうまく伝えることができたか。発表を今後の活動の意欲につなげることができたか。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会、PTA執行委員会の開催 ・PTA会誌発行 ・PTフォーラムの開催 ・同窓会総会の開催 	① PTA役員との連携 ② 同窓会役員との連携 ③ 渉外担当者相互の連携	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
11 成果・課題	○学校休業に伴い、部活動の大会や学校行事がなくなったため、記事収集に苦慮したが、PTA会誌を予定通り発行することができた。 ○PTフォーラムを土曜日開催にしたことにより、参加者が2割増(270人→325人)となった講演会を3年生はリアルで、1、2年生はリモートで行うという試みも概ね成功した。 ▲県・東海・全国の高P連大会が中止となり、役員の研鑽の場がなくなってしまった。 ▲多くの行事が中止になったことにより、新役員への引継ぎがうまく行えていない。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍におけるPTA活動の在り方について検討する。 ・コロナをきっかけに、PTA行事の精選を行う。 	
総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D		

2 評価する領域・分野	◇1年学年会														
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・4月5月の初期指導ができなかったため戸惑うこともあったが、現在は見通しを持ち、学校生活を有意義に送っている生徒が多くみられる。 ・授業の水準や進度、宿題の量や質に慣れてきたようで、模試の結果も7月と、10月を比べるとかなり良くなっている。下位層の数が減り、上位層の数が増えた。 														
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇何事にも前向きに捉え、実生活や実社会に活かせる資質や能力の育成に取り組みます。 ◇学習活動中心の生活習慣を身に付けさせるとともに、良識あるモバイル機器の扱い方について指導します。														
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携 ・保護者及び他学年との共通理解 														
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標														
(1)集団における自身の役割や立場を理解し、責任ある行動が取れるように指導します。 (2)礼儀正しく、明るく活気に溢れた学校の雰囲気づくりを目指して、生徒指導部と連携し指導します。 (3)授業と家庭学習を中心とした学習習慣の確立について、学年団及び教科担任と連携して指導します。 (4)自身の将来像を考えさせる機会を定期的に設け、進路実現に向けた生活習慣の確立を目指して進路指導部と連携して指導します。 (5)モバイル機器の適正な使用について、生徒指導部及び家庭と連携して指導します。	(1)年度末の自己評価や反省、担当職員による評価をもとに、達成状況を判断します。 (2)来客者からの印象や評価を参考にします。 (3)諸調査を行い、学習に対する意識や意欲、学習時間により評価します。 (4)課題の提出状況や、外部模試の結果などにより評価します。 (5)日常生活における使用状況を観察するとともに、保護者懇談会等で家庭での様子を聞き取り評価します。														
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価													
<ul style="list-style-type: none"> ・課題テストや定期テスト、進研模試の結果等を分析・理解させ、毎日の学習習慣の大切さを考えさせる。 ・学年の共通理解のもと、担任・副担任による身だしなみ検査を実施し、指導する。 ・HR活動の時間、担任との面談等を通して、学習、授業、部活動の在り方、目的、意義を考えさせ、自分自身を振り返らせることで、改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種テストの結果等を踏まえて、学習到達度を分析し、学習指導の成果を見る。 ・生活態度が乱れていないかを普段からよく観察する。 ・二者懇談、三者懇談で生徒と保護者の状況を把握する。 	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input type="checkbox"/>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input type="checkbox"/>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		<input type="checkbox"/> A	B	C	D	A	<input type="checkbox"/> B	C	D	A	<input type="checkbox"/> B	C	D
<input type="checkbox"/> A	B	C	D												
A	<input type="checkbox"/> B	C	D												
A	<input type="checkbox"/> B	C	D												
11 成果・課題	○コロナの影響で、初期指導が遅れたことは大きいですが、今現在学校生活全般において落ち着いた態度で取り組むことが出来ている。進研模試の成績も、7月よりもかなり上がり、例年の水準に戻すことができた。モバイル機器については、日々の啓発活動により、マナーを意識した使用の仕方に気を配ることができた。 ▲自分自身の進路を意識した上で、継続的な学習習慣を身に付けさせることの大切さを理解させる。モバイル機器の使用についても時折指導される生徒がいることから、集団生活におけるマナーの向上を図っていく。		総合評価 A <input type="checkbox"/> B C D												
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・各種テストを節目とし、結果を振り返り自分自身の課題を確認することで、学習意欲向上への有効な意識付けとするとともに、自身の将来像を思い描く機会を増やし、より積極的に取り組めるようHRや集会等で啓発を続けていく。 														

2 評価する領域・分野	◇2年学年会	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に対するアンケート」からは、授業に対する評価はおおむね良好で、信頼されていると思われる。 ・模試の結果からは、1年次より学力の下がった生徒が多く、全体的に底上げをする必要がある。特に学習に対する意識を高揚させることが必要である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇基本的学習習慣・基本的生活習慣を質的に向上させ、誠実に物事に取り組む心を育てる。 ◇自ら考え、行動できる主体性を育てる。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、進路指導部、生徒指導部等、各分掌との連携 ・保護者及び他学年との共通理解 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 学年集会やLHRで身だしなみ指導、学習に向かう姿勢についての指導を行い、進路指導部・生徒指導部とも連携し、生徒の規範意識を高め、基本的学習習慣・基本的生活習慣の質的向上を目指す。 (2) 課題・宿題に対して粘り強く考え、分からないところは、自ら調べたり質問したりして、「誠実に探究する習慣」を育てる。 (3) 係や清掃、ボランティア、委員会活動、学年行事等を通じ、公共性や協調性、物事に誠実に取り組む心を養う。 (4) 文化祭や球技大会、修学旅行等の行事に取り組む中で、個々の存在を尊重しつつ、仲間を思いやる心を養う。 (5) 大学情報、学部・学科情報の収集に努めさせ、各自が自分に適切な大学を考察する。 (6) 行事の中で、生徒に企画・立案・運営を行わせることで、目標や目的を明確に持ち、達成に向けて何をすべきかを自ら考えて行動できる生徒を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 状況を観察し、定期的な調査も行いつつ、必要な指導を行い、状況の変化を踏まえて判断・評価する。 (2) 提出物の状況や学習・探究活動への取組を評価する。 (3) 行事が中止になる中、普段の学校生活の場で誠実な心や人を思いやる心をもって取り組んでいるかを評価する。 (4) 生徒との懇談やアンケート調査により、達成感と成就感を判断する。 (5) 進路情報を生徒に与えつつ、懇談を通じて情報交換し、進路目標と実際の取り組みが適切か判断する。 (6) それぞれの活動や行事に対して、生徒が自ら考え工夫する方向で活動させ、実践状況を評価する。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査をふまえ学習時間調査を実施し、学習時間と進研模試の結果の相関性を調べ、学習習慣の大切さを考えさせる。 ・月曜日に身だしなみ検査を行い、適切に指導している。 ・生徒の状況を踏まえて対応し、充実した高校生活になるよう学年団でサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を調査し、各種テストによる学習到達度との関連を調べ、学習指導に生かすことができたか。 ・生活態度が気になる生徒がいるか。 ・学校生活に適応できていない生徒には、各々のケースに応じた対応ができたか。 	<p style="text-align: center;">A B C D</p> <p style="text-align: center;">A B C D</p> <p style="text-align: center;">A B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談、教務部等が学年と連携しながら様々なケースへ対応することができた。今後も個々への対応を充実させ、学年団を中心に他との連携を進める。 ○新型コロナウイルスの感染の影響もあり、集会などがあまり開けず、学年全体の指導があまり行えず精神的に不安定になる生徒も見られた。しかし、外部講師による進路講演会やレクリエーション大会の実施などにより、精神的に不安定になる生徒や進路に不安を感じる生徒の気持ちを和らげることができ、徐々に落ち着きを取り戻し、学校生活に取り組むことができた。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・受験生としての自覚を持たせるとともに、学力の向上を目標に、進路意識の高揚と学習成果が残せるように、生徒との信頼関係を保持しつつ厳しい指導と優しい指導を行う。 ・家庭と密に連絡を取り学習面のみならず、精神的サポートなどを連携して行い、情報を共有する。 ・遠足や学校祭などの行事を通し、クラスの絆、友情を構築し、学年・学校への帰属意識と進路意識を高め、学習意欲と行動力の向上を目指す。 		

2	評価する領域・分野	◇3年学年会			
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査(学習状況リサーチ)より、学習に対する意欲はあり、進路実現に向けて意識は高く、良好な姿勢で臨んでいることが分かる。 ・教科によって積極的にやや欠ける部分や、課題に対する取組が甘い部分があるのも現状である。 			
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人の進路目標の実現と社会に貢献できる人材の育成に努めます。 ◇生命を尊重する心を育み、人権尊重の意識を醸成します。			
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、教務部、生徒指導部、進路指導部、特別活動部との連携 ・各教科会 			
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)	進路実現に向けて確かな学力を身に付けられるよう学習指導を強化します。	(1)	校内でのテスト、外部模試の結果により評価します。		
(2)	校外模試や朝テスト課題実力テスト等を通じて、生徒個々の能力・適性を的確に把握・分析し、生徒の進路目標の実現に努めます。	(2)	生徒個人が幅広い視野のもとに進路設計ができ、能力が伸長し、自らが納得いく進路実現ができたか判断します。		
(3)	生徒の選択肢の拡大や視野を広げるため、適切な情報収集と情報提供に努めます。	(3)	探究活動などを通して、自分の考えを適切に論述、発表、討論するなどの能力を身に付けることができているか判断します。		
(4)	あらゆる機会を通じて生徒と接する時間を増やし、生徒理解に努め悩みや不安の早期発見に心掛けるとともに、基本的な生活習慣を身に付けさせます。	(4)	二者懇談、保護者懇談、教育相談等で情報を共有できたかで評価します		
(5)	職員全体でいじめは絶対に許さないという強い姿勢で臨み、生徒に対して公正かつ公平な態度を示し、風通しの良い、個を尊重する心を育成します。	(5)	授業規律の確立、場に応じた挨拶、端整な身だしなみを校内、保護者、関係機関の連携により、身に付けているか判断します。		
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や懇談、休み時間等を通して、教員と生徒間での情報共有ができる関係の構築に努めた。 ・模試の結果を生徒に提示し、進路への関心を高め、意識をもたせる指導に努めた。 ・探究活動を通して、自己の進路に向き合い、主体的に活動する場を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの団結のきっかけとなる学校行事(球技大会、文化祭・運動会、遠足)が中止となったが、教育相談週間に限らず、担任が進路懇談をするなどして信頼関係を構築した。 ・得られた情報をもとに、積極的かつ継続的に学習に取り組みせ、進路指導部と連携し、学年間の情報共有もできた。 ・自己の進路への関心が深まり、主体的に行動する生徒が増えた。 		 <input type="checkbox"/> A B C D <input type="checkbox"/> A B C D A <input type="checkbox"/> B C D
11	成果課題	○人を思いやる心や感謝の気持ちが育ち、周りを見て場面に応じた行動がとれ、責任感や人権意識が高まってきた。 ○自らの将来に繋がる大学を模索し、情報収集し、担任からのアドバイスに耳を傾け、また相談する姿が見られた。 ○進路への意識は高くなり、学習時間も増えた。受験へ向かう本気の姿勢が見られ、自ら進んで取り組むことができるようになった。		総合評価	
				<input type="checkbox"/> A B C D	
12	来年度に向けての改善方策案				
	<ul style="list-style-type: none"> ・受験指導において、全体指導から個別指導への転換が要求される時期であるので、面談等を繰り返しながら一人一人の把握に努めることが重要となる。模擬試験を有効に活用し、個々の生徒に合った適切な指導を行う。進路指導部と連携し、生徒・保護者が納得できるような進路選択ができるように大学情報や入試情報を生徒に提供し、進路実現につなげる。安易に流される進路決定ではなく、最後まで諦めない受験指導を徹底する。 				